

第 11 回金融教育に関する小論文・実践報告コンクール

優 秀 賞

小論文部門

“^{もう}いいお金儲け”の授業をしませんか！

—暮らしを良くしていく公正で持続可能な社会が、見えてくる—

神奈川県・横浜市立潮田中学校 教諭 力丸 剛

知るぽると

www.shiruporuto.jp

© 金融広報中央委員会 2014

1. はじめに

「私企業は、利益の最大化をその目的とする。」

どの教科書にも、書かれているような基本的内容です。しかし、これを、生徒にわかりやすく伝えようとして、黒板に、「私企業は、できるだけお金を儲けることが、その目的である。」と板書すると、どうなるでしょう。「先生、お金儲けで、いいんですか?!」と、何となく納得できないという顔を向けてくる生徒が出てきます。

経済分野の研究会で、上の話を受けて、「お金儲けを考えさせる、授業研究をしませんか。」と提案したら、どうなるでしょうか。同僚たちから「そんな内容は、学習指導要領のどこにも扱っていないし、第一“経済って、やっぱりお金儲け?”と、かえって誤解され、正しい理解には、決してつながらないよ!」と一蹴されるかもしれません。

さて、この2つの例からもわかるように、「“お金儲け”を学校で扱うのは、非常に難しい!」教育関係者なら誰もが感じていることです。それでも、敢えて聞きたい!「本当に、学校では“お金儲け”を、教えてはいけないの?」と。

この問いに、従来からの「お金と性のことは、〇〇だから……」というようなタブー視や、情緒的な面から切り込むのではなく、筆者は、お金を取り巻く社会の現状を踏まえながら、さらに過去・未来という時間軸を活用して、答えを導き出そうと考えています。そのために、まず“お金儲け”自体を、学校現場から切り離して、単独で考えてみることを提案したいのです。そこで、あり得ない、こんな昔話は、いかがでしょう。

「むかし、むかし、ある町の商店主達は、世間で言われているように、お金儲けを“よしとせず”、自分たちのくらしは、度外視しても、買い手と共に“お金の頓着しない潔い元気な町にしよう”と話し合い、『仕入れ価格、儲けなし!』で商品を売ることにしました。さてさて、遠くからも大勢の買い物客が押しかけ、町は大賑わいです。買い手の暮らしは、どんどん良くなりました。一方、どの店もやがて、蓄えは底をつき、手代や番頭いもの給金も、況んや、店主一家の日々の食事代もままならないということになりました。店や住まいの雨漏りの修繕費も都合することができず、その結果、お店を続けていくことが困難になり、買い手にとって、安くていいお店が、次々と消え、町は寂しくなりました。」

まさに“お金儲けは、いけないこと”パラドクスですね。しかし、筆者は、ここに、答えを導き出すための重大な根拠が隠されていると考えます。

それは、大きく分けて2つです。

- ① お金儲けは、生活していくため、そして、その生活を持続させていくために必要なことであり、それ自体を否定することはできない。
- ② お金儲けは、暮らしが良くなることを期待する売り手と買い手の間に成り立つのであり、そのことが、さらに、社会全体の暮らしを良くする活力になっていく。

「なにを、きれい事ならべているの」と、お思いの方もいらっしゃるでしょう。そうです! 確にお金儲けは、きれい事だけではすまされない、もう一方の側面も持っていることは、十分承知しているつもりです。例えば、私たちは「儲けた! 儲けた!」という言葉から、「お金儲け」とは、多くの場合、売り手が得をして、買い手が損をした（逆の場合も起こりえる）というどちらかが、いやな思いをする「損得」の構図でとらえがちです。しかも、その言葉の微妙なニュアンスの中には、「自分だけ儲かって、うまくやった!」ということが含まれていることをたびたび感じます。そして、その延長線上に存在するのは、一部ではあるとはいえ、お金の不思議な魔力に振り回され、我を忘れた大人達の姿であり、子供達に、日ごろ、「自分の事だけを考えず、他の人の事も大切にしてください!」「いつも、神様・お仏様が見ているよ!」と人の道を説く大人達とは、ひどくかけ離れたものなのです。それゆえに、こういう大人達の存在を抱えてきた社会は、昔から「子供に、“お金儲け”のことを、教えるなんてもってのほか!」と考えてきたのは、至極当然なことといえるでしょう。さらに、この考え方は、そのまま、教育現場に持ち込まれ「“お金儲け”を、学校で教えることは、そぐわない。」という不文律の共通理解を生み出していたのではないのでしょうか。しかし、冷静に、お金儲けをそれ自体の原点に立ち返って捉えるなら、前述のように、暮らしを良くしていこうとする人々の営みに於いて、欠かすことのできない重要な要素であることが、浮かび上がってくるのです。

2. “いいお金儲け”って?

ところで、金融・経済の授業を積極的に進めてきたつもりでいた筆者も、実は、大多数の先生方と同じように、「お金に関する授業は、理解が得にくい! 難しい!」という認識を、持ち続けてきました。そして、実際、いろいろな場面で、思わぬ経験をしてきました。株式に関する授業では、「先生、うちの子、株始めちゃったんです。毎日株式欄見て、メモとっ

ているんです。どうかしてください。」という保護者からの電話を受けることとなったり、消費者金融に関する授業では、関係会社に勤める保護者から「借り手と貸し手の両方の立場に立った、授業をしてほしい！」というお叱りを頂いたり、多くの冷や汗をかいてきました。

それでも、「“お金儲け”の授業・研究をしたい！」と思うようになったきっかけは、ある都市銀行の金融教育セミナーへの参加でした。基調講演の後、開かれた社会科分科会で、金融教育の進め方について議論していた時、現職の銀行員の方から「ところで、“お金儲け”ということについては、いつ、どこで、何を、どのように教えているのですか。」という問いかけがありました。「え！お金儲けの授業……?」たぶんこの時点で、日本中の社会科の先生誰一人として、“お金儲け”を授業として、実践された経験のある方、いや、思いついたことのある人は、皆無だったのではないのでしょうか。もちろん、筆者もまさに、絶句でした。さらに彼は、続けます。「お金儲けはいいこと、悪いこと云々ということが、よく言われますが、それも大事なかもしれませんが、いいお金儲け・悪いお金儲けって何かを徹底的に考えさせることこそが、売り手・買い手の関係だけを考えるのではなく、お金を取り巻く様々な人々のあるべき姿を明らかにすることができ、さらに、最近言われている持続可能な社会の形成という面からも大変有意義な学習となるのではないのでしょうか。つまり、本当の金融・経済教育は、いいお金儲けの授業をしてこそ、その本質に迫っていきけるのではないのでしょうか。」という発言でした。「いいお金儲け!? その学習が、金融・経済の本質に迫り、持続可能な社会の形成に有意義!?’はたしてそんな授業ってあるのだろうか。その日から“いいお金儲け”が、頭から離れないようになりました。

3. いいお金儲けは、売り手と買い手が共に喜ぶ

唐突ですが、食品偽装について考えてみたいのです。「食品は、直接口に入れるもの、命にも関わるもの」ですから、その安全性を一番に重視しなければいけないのは、当然でしょう。しかし、お金の魔力に振り回されてしまった売り手側の発想は、「ばれなければいい!」「自分さえ儲ければいい!」「騙されて買うやつが悪い!」というものです。なんと恐ろしく、悲しいことでしょう。まさに、モラルが崩壊しているのです。誰が考えても、“悪いお金儲け”の典型でしょう。それは、買い手側に常に付きまとう極めて不利な状況（情報の非対称性による情報格差）を悪用した許されざる行為なのです。これだけ消費者主権が唱えられ、食の安心・安全が叫ばれて、消費者庁が創設されても、残念なことに、買い手の側には、売り手の本当の行いを、完全には見極める方法などないといっているのです。だからこそ、繰り返されるこの食品偽装を根絶するには、チェック体制などをさらに確立・強化すると共に、“買い手を裏切る行為は、絶対しない!”という売り手としての公正さ、さらに“不正は、絶対許さない!”という正義感を持ち続ける社会が求められているのです。

このように、食品偽装を自分の都合だけを考え、モラルの崩壊した売り手が行う“悪いお金儲け”の典型と捉えるなら、“いいお金儲け”とは、いかなるものなのでしょう。先日、筆者は、偶然にも、このことに、強い示唆を与えてくれる二宮尊徳の次のような言葉を目にするようになりました。

すべての商売は、売って喜び、買って喜ぶようにすべし。
売って喜び、買って喜ばざるは道にあらず。¹⁾

二宮 尊徳

「“いいお金儲け・悪いお金儲け”をこんなに端的に短い言葉で表すことができるんだ。」目から鱗でした。さらに、“いいお金儲け”とは、自分(売り手)も勝って(喜び)、相手(買い手)も勝つ(喜ぶ)。それぞれの当事者が欲しい結果を得る、つまり、社会でお互いに成り立ちうる最良の形を実現しようとする Win-Win の関係にも、通ずるものがあることに気づき、驚きさえ覚えたのです。なぜなら、現在のビジネス界で培われた考え方と同様なものが、日本では昔から唱えられていたのですから。我々は、こういった、先人達の知恵に立ち返り、貴重な言葉をぶれない信念として、売り手も買い手も喜び、お互いに成り立ちうる“いいお金儲け”を、暮らしを良くしていこうとする方に、そのベクトルを与えるものとして、社会全体で大いに活用していかなければならないのです。

4. いいお金儲けは、みんな共に喜ぶ

さて、学習指導要領解説（社会〈公民的分野〉）(1) 私たちと現代社会 イ 現代社会をとらえる見方や考え方)にある次の記述について、考えてみたいのです。

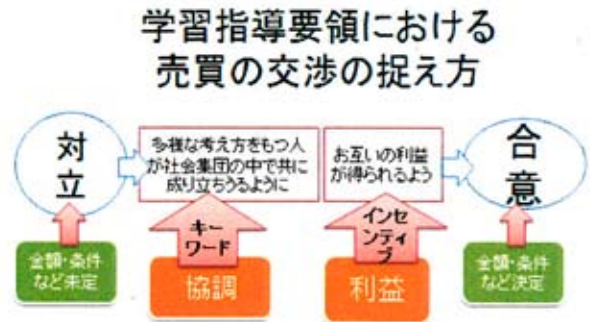
「売買の交渉などにおいて、売り手と買い手が異なる金額や条件を提示してまとまらない場合もある。……このような『対立』が生じた場合、多様な考え方を持つ人が社会集団の中で共に成り立ちうるように、また、互いの利益が得られるよう、

何らかの決定を行い『合意』に至る努力がなされていることについて理解させることを意図している。」²⁾

市場経済の特徴の1つは、売り手と買い手が自発的に行う売買の交渉、すなわち取引です。しかし、現実には、異なる金額や条件を提示してまとまらないということも起こります。その場合、考えなくてはならない事として、

- ①「多様な考え方もつ人が社会集団の中で共に成り立ちうるように」
- ②「お互いの利益が得られるよう」

という2つのことをあげています。そこでまず、①とは、どのような事なのかを考えてみましょう。ともすると、経済とは、かけ離れた社会や政治のこととして、とらえられがちですが、筆者は、共に成り立ちうるためのキーワードをさがすことこそが、読み解く鍵であると考えます。例えば、お互いの主張が、異なった者同士が、自身の考えのみに固執して「対立」した場合は、決して「合意」には至りません。どうすればいいのでしょうか。そう！そこに浮かび上がってくるキーワードこそ



が、「協調」なのです。そして、②をインセンティブとして、共に成り立ちうる何らかの決定が行われる過程において、合意が図られるための努力が積み重ねられてこそ、人々の暮らしは、よりよくなっていくことを理解させるのです。

さらに、市場における「自発的交換は、すべての参加者が利益を期待できる場合にだけ発生する」³⁾ ということを考えさせることが非常に重要なのです。それは、売り手・買い手だけでなく、例えば、野菜であれば、それを作った農家、いろいろな手配をした農協、運んだ運送屋さん etc、会社であれば、製品を作った従業員、資金を出した株主、仕入れ先、得意先 etc、全ての参加者の利益が期待できるということが、前提にあるということです。この関係の中で誰かの利益が期待できないとしたら、当然、自発的交換はスムーズに行われなくなり、市場自体が行き詰まってしまうことでしょう。すなわち、すべての市場参加者の利益が図られる時のみ、売り手も、買い手も、さらに参加者みんなが共に喜ぶ“いいお金儲け”が市場に広がっていくのです。

5. “いいお金儲け”と公正で持続可能な社会

こうして、売り手、買い手を越えた“全ての参加者”ということを考えていくと、必ず、ステークホルダーという言葉に行き当たります。日本語では“利害関係者”です。実は、初めてこの言葉を聞き、調べた時、筆者は、「なんだ！また、損得の話か」と、がっかりしてしまいました。しかし、さらに読み進むと、そこには、実に重要なことが書かれていたのです。

ステークホルダーとは、市場・社会環境の変化に押し流されることなく、持続可能な「Win-Winの関係（相互に利益を得る）」の形成が課題である。⁴⁾

(生徒にステークホルダーの理解を促すための資料1、2を、ワークシートとして資料3、4の活用を進めることが有効である。)

まさに、前述した内容が、課題として、浮かび上がってきているのです。そこで、筆者は、この課題を掘り下げ、考えていくために、「支援」というキーワードをさらに取り上げてみたいのです。売り手は、買い手（消費者）からの支援がなければ、存続できません。（食品偽装を行った多くの会社が、その存続の危機に立たされました。）さらに、会社は、社員、株主、仕入れ先、得意先などからの支援が無ければ、存続できません。また、環境保全に消極的な会社を誰が支援しますか。現在では、市民の支持がなければ、存続はできません。その上で、「政府は、経済の効率性と公正性を確保するために、所有権を保護し、契約を履行させ、誰もが「ゲームのルール」に従うように努力する」。⁵⁾ あらゆるステークホルダー間での関係を確かなものにしていくのです。そして、前述のように「協調」と、そのインセンティブとしての「利益」、さらに「支援」が、社会全体が成り立ちうる鍵となってくるのです。協調を通して、利益が生じると期待しうる社会、但し、誰かが不利益を被っていない社会、言い換えれば、参加の平等、手続きの公正、結果の公平が保障される社会において、利害関係は、“互いを支援しながら利するのみの関係”へと高まっていくのです。このことを、近江商人は、「売り手よし、買い手よし、世間よし」という端的な言葉で、昔から伝えてきたのです。余談ですが、日本の商人が、築き上げてきた伝統的な規範や習慣は、現在でも、世界にも通じる素晴らしいものなのです。その証拠に、日本には百年以上も持続した老舗の商店から生まれた世界に誇れる会社が、いくつも存続しているのですから……。

さて、こうして、社会全体が成り立ちうる“いいお金儲け”は、例えば、ステークホルダーの支援に対して社会的責任(CSR)をしっかりと果たしていく企業を育て、私たちが、将来世代に引き継ごうとしている公正で持続可能な社会の形成に大きな役割を果たすのです(資料5、6参照)。

6. そして、経世済民へ

まず、筆者の経済の授業での次の課題を、考えてほしいのです。

<p>2つの国(印刷業の国)を考える (人口20人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A国 年収1,000万円の人が、10人 年収200万円の人が10人 ・ B国 年収400万円の人が、20人 <p style="text-align: center; border: 1px solid red; padding: 2px;">あなたは、どちらの国に住みたい？</p>	<p>A国では、パソコンを購入する資金がなく、タイプライターで仕事を続けている人の年収は、200万円です。B国は、国を挙げて、資金援助、技術訓練などを行い、パソコンの普及を推進し、技術革新に成功した国です。</p>
---	---

この問いに、あなたなら、どう答えますか。ある男子のように「A国に住みたい。資金がなく技術革新について行けないのさ。世の中には、勝ち組と負け組があるのは、しかたないよ。」と格差を是認するのか、ある女子のように「私は、B国。特に成功しなくてもいいの。失敗したら大変……」とリスク回避を考えるのか。授業は、侃々諤々の展開を迎えます。

次に、いきなり、カメラのフィルム(巻き取った筒状の物)を見せ、「これ、なんだかわかる？」という質問をします。すると、ほとんどの生徒がわからない様子で、中には、「新しい電池！」など言うものが出てきます。「これは、カメラのフィルムだよ。」伝えると、何となくわかるような、わからないような反応を示します。これが、技術革新の一つの姿なのです。「もし、A国で君達が、フィルム会社の社員で、デジカメが普及していったら、一大危機だね。年収200万円ということになるのかなあ〜」と話すと、ちょっと揺さぶられる生徒が出てきます。さらに「世の中には、自分ではどうしようもないことが、起こることがあるんだよ。実際にこういった技術革新で、置き去りにになってしまう人々、それに伴って消えていく職業……。また個人的にも、病気や老齢など様々な事が待ち構えているんだよ。」「さあ〜て、ここからが大事！これらのことから、人々を救うことこそが経済の本来の使命なんだ。経済とは、経世済民。『世を治め、民の苦しみを救う』⁶⁾の意味であり、そのような立派な政治で人々の幸せを図ることということが、もともとの意味なんだ。」「そこでA国では、みんなが平等に参加し、議論を重ね、公正な手続きを経て、お金持ちから税金をたくさん取って、所得の少ない人々に分け与えて、社会の公平を図ることに合意したんだ。」と締めくくると、大きくうなずく生徒が出てくるのです。“経済っておかね儲け”と考えていた生徒達が、その思いを大きく変えていく瞬間です。

さて、これからの日本は、世界に類の無い速さで進む少子高齢社会において、将来世代の喜びを先取りしない持続可能な社会の形成のために、例えば、税金や、社会保障制度をどのようにしていくのか、という議論を進めていかなければなりません。それは、「将来にわたって、社会のどのような価値を大事にしたいのか。目指すべき社会とは何か」⁷⁾、そのためにどのような行程を選択することが最善なのかという国の形に関わるものとなるでしょう。当然、対立が生まれ、なかなか合意に至らないということが、起こるでしょう。その時に、大事なことは、経世済民を念頭に、誰もが喜び得る国を築くために、“いいお金儲け”を持続可能なものとし、利益(儲け)をどのように分かち合うのかを真剣に話し合い、全ての人成り立ちうる社会、誰かが不利益を被っていない公正な社会を目指して、骨太の枠組みを、しっかり確立することなのです。

こうして、共に成り立ちうる“いいお金儲け”を多面的・多角的に捉えと、社会の持続可能性に関わる重要な要素の一つであることが見えてきます。さあ〜あなたも“いいお金儲け”の授業をしませんか。

7. まとめ

金融広報中央委員会では、金融教育を「お金や金融の様々なはたらきを理解し、それを通じて自分の暮らしや社会について深く考え、自分の生き方や価値観を磨きながら、より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて、主体的に行動できる態度を養う教育である」⁸⁾としています。

そこで、筆者は、

▷まず、売り手・買い手という関係を金融の基本に据え、自分の暮らしや社会のあるべき姿を考えるため
▷次に、お金を取り巻く人々の姿を通してモラルを確立し、将来にわたって大切にすべき価値観を磨くため
▷さらに、よりよい社会づくりとしての持続可能な発展を促す社会の形成を目指すため
ここで述べた“いいお金儲け”の学習を、新たに金融教育の一つに加えることを提案したいのです。そうすることによって、「確かな金融リテラシーを基にした、暮らしを良くしていこうとする“生きる力”を育み、互いが、納得して、安心して豊かに暮らせる社会の形成に向けて、主体的に行動できる生徒を育てる」ことができると考えています。
最後に、筆者を含め“いいお金儲け”の授業を進めていこうとする先生方に、次の言葉を届けたい。

道徳を忘れた経済は、罪悪である。
経済を忘れた道徳は、寝言である。¹⁾

二宮 尊徳

注1)「地球の名言 二宮尊徳(二宮金次郎)の名言」 URL <http://earth-words.org/archives/3285>

注2) 文部科学省「中学校学習指導要領解説 社会編」平成20年7月、平成26年1月一部改訂

注3) 山岡道男、浅野忠克 『アメリカの高校生が読んでいる経済の教科書』アスペクト 平成20年

注4) 『現代用語の基礎知識』自由国民社 平成26年

注5) ゲーリー E.クレイトン著、大和証券商品企画部訳、大和総研教育事業部監訳『アメリカの高校生が学ぶ経済学—原理から実践へ』WAVE出版 平成21年

注6) 三省堂編修所編『大活字 三省堂 四字熟語便覧』三省堂 平成16年

注7) 朝日新聞 平成24年6月7日「道徳は市場に勝てるか」

注8) 金融広報中央委員会『金融教育プログラム』平成19年

資料 1 授業で活用する資料

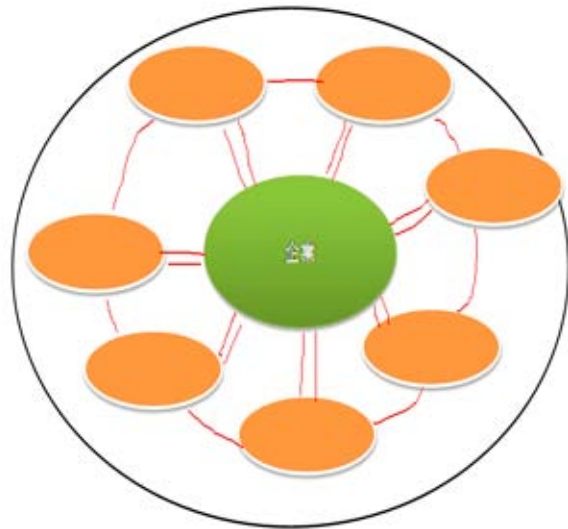
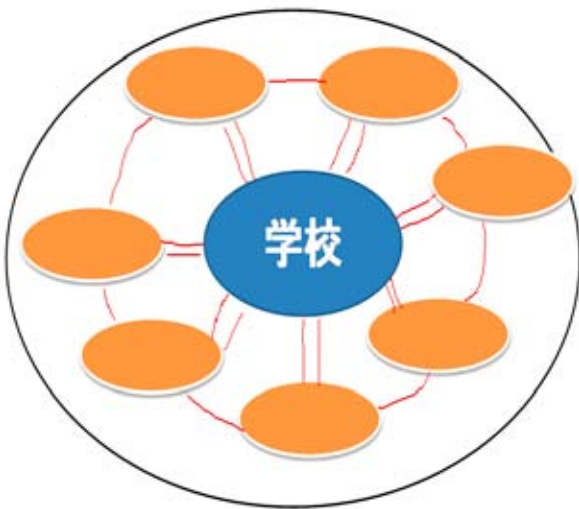
1. 企業・学校のステークホルダーの図を完成させよう！

○の中にステークホルダーとしてふさわしいものを書きなさい。

学校

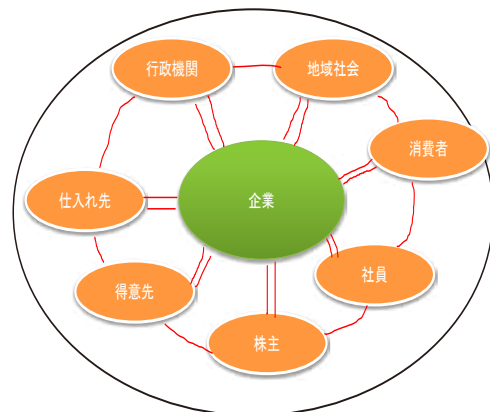
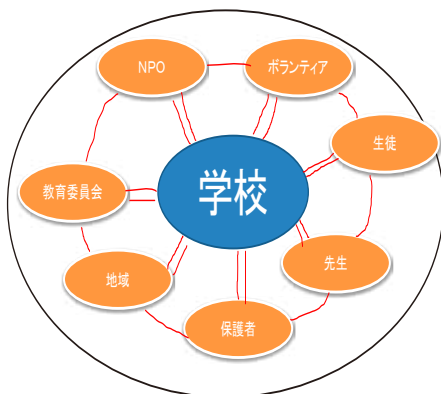
企業

＝ は、支援を意味する



(注) 経済教育学会 第 30 回全国大会 (2014 年) 発表資料

解答例



資料 2 学習ノートをまとめよう

ステークホルダーということを考えよう！

企業自身が持続的発展を目指すうえで、顧客、従業員、株主、取引先、地域社会、自治体、政府などのステークホルダーを常に念頭に置いておく必要がある。

- 顧客—安全な商品の提供、アフターサービスの徹底
- 従業員—雇用の保障、人権の尊重
- 株主—安定配当、倒産回避
- 取引企業—安定取引、契約遵守
- 地域社会—環境汚染を防ぐ、コミュニティづくりへの協力
- 行政機関—法令の遵守、納税義務の遂行

次のマークの意味を知ろう！

*ISO9001 (品質マネジメントシステム)



顧客に品質のよいモノやサービスを提供すること、つまり「顧客満足」を目的としている。

*ISO14001 (環境マネジメントシステム)



会社を取り巻く地域の方々（利害関係者）のために環境に悪影響を与えないようにすること、つまり「環境保全」を目的としている。

(注) 平経済教育学会 第 30 回全国大会 (2014 年) 発表資料



資料 3 CSR を評価するための簡単なレポート作り

実際には、各企業における CSR の取り組みについて理解を深めるため、次のようなレポートを作成しましょう。その際、「有用な情報の収集をどのように進めるか」、「多くの情報からどのようにして有用な情報を絞り込むか」などを考えながら、情報収集のスキルアップを目指してください。さらに、知りたい情報については、「私たちの応援したい会社」で取り上げているように、直接、手紙等で問い合わせしてみるのもいいでしょう。ただし、あくまで大事なことは、多くの項目を設け調べるのではなく、例えば、「〇〇株式会社について、ステークホルダーという視点からまとめる」、「ISO9001 と、ISO14001 の取得、取り組みについて簡単に整理する」というように、ここで示したような的を絞ったレポートにしていくことです。こうして、有用でしっかりした根拠に基づいて、学習を進めていくのです。

レポート例 1

() 株式会社の ISO9001、ISO14001 について、どのような内容なのか、工夫している点などの取り組みの様子を簡単にまとめてみよう。

() 株式会社

	<p>内容</p> <p>工夫している点</p>
	<p>内容</p> <p>工夫している点</p>

(注) 生徒用配布資料

資料 4 私が作る () 株式会社の CSR レポートの例

1. 消費者 (お客様)

①安全な商品の提供について

()

②アフターサービスの徹底について

()

2. 従業員 (社員)

①雇用の保障について

()

②人権の尊重について

()

3. 株主

安定した配当について

()

4. 取引企業

安定した取引について

()

5. 地域社会・コミュニティーへの協力

()

6. 環境汚染を防ぐ

()

7. 行政機関との関係

公正な活動 (法を守るなど) について

()

(注) 生徒用配布資料

資料 5 CSR とステークホルダーの関係について理解を深めよう！

「グローバル化」「サービスの多様化」「社会の情報化」などが、とめどなく進む社会・経済の急激な変化の中で、消費者・生活者が、多くの場面で、受け身に立たされる可能性がとりただされています。しかし、一方で「自分の消費行動で社会は変わると考える人は約 6 割にのぼって」¹⁾ いる事実がある。この事は、例えば、日常の買い物を通しての消費者一人ひとりの合理的な選択こそ、「社会を変える」原動力になるということの意味しているのです。すなわち、買い手である消費者は、その多くが購入する商品を通して、「何を、どのように、誰のために生産すべきか」ということについての強烈なメッセージを発信することができるのです。そして、これを受けて、企業は、さらに買い手に支持される優れた商品を提供する努力を続けることで、利益の最大化を目指し、消費者は、商品を自己責任の伴う合理的な選択を通して購入することで、効用・満足最大化を図ることになります。こうして、市場では、売り手と買い手が絶妙なバランスを保って結びつき、その結果、希少な資源が最大限有効に活用され、配分されていくのです。そして、「効率的で公正な市場」のゆるぎない確立のためには、企業が、ステークホルダーというさらに広い関係の信頼を基に、消費者、取引企業、株主や従業員などの利益を増進させるために CSR を確実に推し進めていくことが求められているのです。併せて、「政府は、経済の効率性と公正性を確保するために、所有権を保護し、契約を履行させ、誰もが『ゲームのルール』に従うよう努力」²⁾ し、企業との関係を確かなものとしていくのです。

(注 1) 内閣府『平成 20 年版国民生活白書』

(注 2) ゲーリー E. クレイトン著、大和証券商品企画部訳、大和総研教育事業部監訳『アメリカの高校生が学ぶ経済学—原理から実践へ』WAVE 出版 平成 21 年

(注 3) 潮田中学校社会科教員研修用資料

資料 6 CSR の意味をしっかりとつかもう！社会的責任と社会貢献の違い

日本では、企業の CSR の取り組みは、メセナや寄付など利益を求めない活動が、その中心であると考えられていた時期があり、社会的貢献というようにとらえられ、誤解が生じているようですが、企業が、「社会に対して支払うコストではなく、企業の持続的発展や競争力の向上に役立つ将来への投資」¹⁾ であるということを踏まえ、考えていくことが非常に重要になってきます。

(注 1) 育鵬社『中学社会 新しいみんなの公民』平成 24 年

(注 2) 潮田中学校社会科教員研修用資料